

# 陸上運動部部便り

2015 年 6 月号

—国公立戦 優勝—

## 目次

1	講評	1
2	試合経過	2
3	試合結果	11
4	自己記録更新者一覧	13
5	2015 年度部内五傑	13
6	応援 OB・OG 紹介	15
7	行事予定	16
8	連絡先 (慶弔等)	16

## 1. 講評

### 監督・藤田靖浩

今年度の男子は最終種目直前まで東京学芸大学と競り合いましたが、5000m で大量得点をとれたこともあり 187 点で 5.5 点差で優勝。来年関東インカレで昇格争いをするライバルに勝ち、自信をつけることが出来ました。

個人の結果では、走幅跳で西村が 7m29(大会新)、1500m で軽部が 3 分 56 秒で各々優勝したように一番手が安定したパフォーマンスを見せたことに加え、400mH、走幅跳、やり投などを中心に二番手三番手の選手の活躍も目立ち、チーム全体の実力があがってきていることを証明出来ました。

また 4 × 100mR も急遽補欠の 4 年飯島、3 年松本を起用した即席チームでしたが 40 秒 84 と昨年までの東大記録を上回っております。

次の対校戦、7 月 4 日に上尾で行われる四大戦でも総合優勝し、七大、京大と対校戦全勝への流れを作っていきたいと思います。

### 主将・藤田旭洋

今年の国公立戦は快晴のもと、絶好のコンディションで行われました。

関カレでは、一部に上がれなかったもののチームとして好成績を残しただけに、この試合は何がなんでも勝って強さを見せないといけない。部員一同このように考えて試合に臨みました。結果、男子はトラック・フィールド共に優勝し、見事総合優勝を手

しました。この大会で目立ったのは、各種目の二番手以下の選手の活躍です。関カレで活躍した選手が点を取るのももちろん、やり投げや 800m などでは二番手の選手が下馬評を大きく覆す活躍をしました。この試合を通してチーム全体として層が厚くなっていることが確認できる結果を出せた、という点に関しては大変喜ばしく思います。

しかし、その一方で、七大戦や京大戦、そして関東インカレで今回と同じことをしなくてはならないという思いもあります。今回の結果に満足することなく、より高いレベルの試合でも勝てるよう部員一同今後も精進いたしますので、OB・OG のみなさまにおかれましても、今後とも変わらぬご指導ご鞭撻のほどよろしくごお願い申し上げます。

### 女子主将・宮崎愛里香

今回の国公立戦は、女子部員にとっては厳しい結果となりました。

今年度女子パートとしては、京大戦での勝利を目標に据えて、まずはそれぞれの部員が自分の種目で十分戦えるように力をつけることをそのための第一段階と考えており、そのため国公立戦でも多種目出場を控える方針をとりました。しかしながら、昨年度主力であった先輩方が抜け、新入生はまだ練習を始めて間もない状態で、戦力不足を補うにはまだまだ個々の力が充分ではないことを痛感いたしました。京大戦で勝つためには、各自が専門種目で力を発揮することが当然必要となります。しかも、専門とは限らないものも含めた複数種目に出場した上で、そのいずれでもしっかりと結果を出すことが求められることも考慮しなくてはなりません。

今回出場した各選手については、夏、秋と実力をつけていき、対校戦で勝てる選手になれるよう努力して参ります。また、今回は出場していない新入部員にも積極的に対校枠を狙ってもらい、女子パート全体の底上げに繋げられるようにしたいと思います。

OB、OG の皆様におかれましては、今後ともご指

導、ご鞭撻のほどよろしくごお願いいたします

## 2. 試合経過

### トラック

#### 9:00 男子 1500m タイムレース決勝

1 組目に西川 (4 年)、軽部 (3 年)、加藤 (3 年) の出場。西川、軽部は、昨年のこの大会で、それぞれ 5 位と 1 位という成績を残しており、今年も期待がかかる。加藤は、先日の関東インカレで 800m のベストを更新しており、1500m でも大きな可能性を秘めている。今大会最初の種目ということで、良い流れを作るために、3 人には多くの得点獲得が期待された。

号砲。初め、軽部が先頭に立ち、その後集団のやや前よりに軽部、後方に西川と加藤がつけた。600m 辺りから西川と加藤が集団から離れ出す。800m を過ぎて、集団が徐々に縦に伸びてくる。西川、加藤はこぼれて来た選手を食い、順位を上げる。残り 1 周の地点では先頭集団は軽部を含む 4 人に絞られた。西川、加藤はそれぞれ 7、8 番手で残り 400m を通過する。先頭集団のペースが上がる。ラスト 200m を過ぎた辺りで軽部が先頭に立つと一気に 2 位以下を引き離して、そのまま 3'56"30(PB) の 1 着でゴール。加藤はラスト 1 周で順位を上げ、4'03"23(PB) の 6 着、西川は 4'07"79 の 8 着でゴールした。2 組の結果を踏まえタイムレース決勝により、軽部が 1 位、加藤が 6 位、西川が 8 位で、計 12 点を獲得。以降の種目に向け、良い流れを作る結果となった。今後も、練習に励み、他の対校戦での活躍を期待したい。

#### 9:15 男子 400m 予選

1 組 3 レーンに小西 (4 年) の出場。参考記録では 2 位以下に 1 秒以上の差をつけて最速であり、予選は難なく乗り越えられるだろうと思われた。予想通りの走りを見せ、150m ほどですでにトップに立ち、ラ

スト 100m は完全な独走状態だった。記録は 48" 62 の 1 着だった。余裕の走りに優勝への期待がかかる。

2 組 6 レーンに河野 (2 年) の出場。組 1 着でのゴールは難しいようで、プラス 4 にはいつかの決勝進出が期待された。スタートからしばらくは両隣の選手と並ぶようにして走っていたが 200m 地点ほどで差をつけられはじめ、ホームストレートで引き離された。結局 3 番目にゴールラインを通過。しかし、スタート後 6m 地点で内側のラインを踏んだという判定により失格となった。今回は悔しい結果になってしまったがシーズンはまだ始まったばかりである。これからのレースで記録を伸ばし、得点してくれることは間違いない。3 組 6 レーンに森本 (3 年) の出場。こちらも参考記録では組 1 位であり、決勝への進出が期待される。スタートから 5 レーンの選手が詰めてきた。横に並ぶかと思われた 200m 地点からスピードを上げて、差をつけることに成功。ラスト 100m は流してゴールし、記録は 50" 59 の 1 着だった。決勝では小西とのワンツーフィニッシュを狙う。

### 9:30 男子 100m 予選

1 組 5 レーンに松本 (3 年)、2 組 4 レーンに竹井 (M2)、4 組 3 レーンに泉 (4 年) の出場。竹井は優勝候補の筆頭であり、泉と松本も決勝進出を狙う実力は十分にある。天気は快晴であり気温も高く絶好のコンディションの中でのスタートであるので、好記録が期待できる。1 組松本は中盤で 4 レーン橋大の矢野にスタートから離されるが、冷静に矢野を追い終盤には差を詰めてゴールラインを駆け抜けた。結果は 11" 06(+0.6) の自己新をマークして 2 着であり、プラスでの決勝進出を果たした。2 組竹井はスタートでは 5 レーン、6 レーンの選手と横一線に並んでいたが、中盤からは先頭を譲らず最後は軽く流し 10" 85(+0.3) の 1 着でゴールし、格の違いを見せつけて決勝進出を果たした。4 組の泉はスタートで飛び出し頭一つ抜け出したが、中盤から差を詰め

られ始めると走りにも力みが見られるようになってしまい、終盤では差をつけられ 11" 07(+1.5) の 3 着でゴールした。泉は自己新をマークしたが、プラスの 5 番目であり惜しくも決勝進出を逃した。松本は自己ベストを更新しての決勝進出であり、決勝では 10 秒台も期待される。竹井は前回王者として 2 連覇に挑む。泉は決勝進出こそならなかったが、好調ぶりをうかがわせるレースであった。4 × 100m リレーでの活躍を期待したい。

### 10:05 女子 100m 予選

2 組 5 レーンに笠村 (3 年) の出場。12 秒台の記録を持つ選手が 5 人出場しており厳しい戦いが予想されるが、笠村の参考記録は全体で 8 番目であり、決勝進出と得点獲得が十分に狙える。グラウンドコンディションも良好であり、自己ベストの更新も期待される。スタートでは 7 レーン東学大の児島が飛び出した。笠村はスタートで出遅れ、苦しい展開となる。中盤からは身長を生かしたダイナミックな走りで加速し差を縮めて 2 人を抜くも、先頭を行く 3 人には及ばず 13" 74(-0.1) でフィニッシュした。笠村の記録は自己ベストに迫る記録であり、今後の自己ベスト更新は時間の問題であろう。しかし、四大戦でも戦うことになる東学大は選手層が厚く上位で勝負するためには 13 秒台前半、さらには 12 秒台も視野に入れなければならない。スタートからのスムーズな加速が課題である。

### 10:45 男子 110mH タイムレース決勝

1 組 3 レーンに宮原 (4 年)、6 レーンに中島 (2 年)、8 レーンに加来 (3 年) の出場。宮原は先日の関東インカレにおいて準決勝まで進出しており、活躍が期待される。加来も申請記録では全体の 6 番目につけており、少しでも順位を上げてゴールしたいところだ。中島は、杉森 (6 年) の怪我によってチャンスが巡ってきた。レースだが意地を見せられるか。号砲が鳴りスタート。中島が少し出遅れ、1 台目を引っ

掛けてしまうがあまりスピードは落ちない。逆に宮原は1台目をうまく越えたが2台目を引っ掛けて倒してしまい、前との差が少し開く。しかし、それ以降は持ち直し、いいピッチを刻んでハードルを引っ掛けることなく越えていき、後続を引き離していく。加来は、1台も当てることなく安定した走りを見せるが、前との差が広がってしまう。中島は6台目を倒してしまい減速するが、意地の走りを見せる。宮原は6台目以降目に見えてスピードを上げ前の選手を追い上げたが、前半の遅れが響き4着でゴール。後半少しスピードを落としてしまった加来が6着でゴール。次に中島が7着でゴールした。記録は宮原が15"46で全体の4位、加来が16"49で全体の8位、中島が18"25であった。この時の風は-1.1mであった。全員がベストな走りとはならなかったが、この種目で得た6点は短距離勢でこの日初の得点となり、午後に向けて勢いを与えてくれた。次の四大戦での活躍に期待がかかるところである。

### 10:55 男子 200m 予選

東大からは稲葉(4年)、小西(4年)、河野(2年)の出場。稲葉は2週間前の関東インカレで自己ベストを更新、波に乗っている。また、小西と河野は今回200mと400mの2種目にエントリーしており、本数を重ねる中での疲労が心配されるが、実力は十分であり好成績が期待される。1組5レーンに河野の出場。本来の力を取り戻しつつある河野にとって決勝進出を目指してのレースであった。ピストルの合図と同時に河野は飛び出す。スタートは三人ほぼ互角。コーナーでは河野が6レーンの選手を捉え、直線に入った時点で2番手につける。しかし、後半思うようにスピードを維持できず、ラスト50mのところまで3番手に後退、懸命に粘るもそのまま3着でフィニッシュ、このとき記録は22"69(-0.6)だった。予選2組3レーンに稲葉(4年)の出場。自己ベストから考えて、優勝が期待されるレースであった。好スタートで飛び出し、スムーズな加速から2番手につける。

しかし100m地点で足がつってしまい、レースを離脱。幸いにもつったのみで治療を必要とするケガにはならなかったが、残念な結果に終わってしまった。予選3組4レーンに小西(4年)の出場。決勝進出の実力は十分、1着で通過して欲しい。スタートからスムーズに加速していき、コーナー半ばで先頭に立つと伸びのある走りで他を寄せ付けない。その後も失速することなく、最後は流しながらトップでゴール。決勝進出を危なげなく決める。記録は22"12(-1.3)だった。3人の実力を考えるとアクシデントこそあったとはいえ、1人しか決勝に進めなかったことは残念であった。

### 11:10 男子 800m 予選

男子800mの予選は1組6レーンに早川(2年)、2組6レーンに戸田(3年)、3組3レーンに小南(4年)の出場。3選手が皆、今シーズンに800mの自己ベストを更新する好調ぶりで、全員の決勝進出が期待される。1組目の早川はスタートから快調にスピードに乗り、ブレイクの時点では1人飛び出した格好になる。その後200m地点あたりで2人に追いつかれ、3人の縦列の先頭になり、400mの通過は57"。その後も先頭を引っ張り、1人を引き離すが、ホームストレートで2番手の選手に並ばれ、最後まで粘ったものの、最後は前に出られ、1'58"82の2着でフィニッシュ。しかしプラス進出の1番手になり決勝進出を決めた。2組目の戸田は落ち着いたスタートながらも、ブレイク時には形成された縦列の先頭に立つ。1人を引き離し3人の列となって400mを60"で通過。その後も集団の先頭を走り続けるが、700m地点からの2番手の選手のスパートに対応できず、前をゆるして2'03"06の2着でフィニッシュ。プラス進出の中で7番手となり、直前期まで好調ただけに悔しい予選落ちとなった。3組目の小南は内側のレーンだったためブレイク直後は集団に埋もれる形となるが、200m付近で前に出て、先の2人の東大勢と同様に積極的に先頭に立つ。400mを59"

で通過し、その後も 1 人、2 人と集団から振るい落とし、最後は 2 番手に大きく差をつけて 1 着 (2'00"06) でフィニッシュ。目標としていた 1 分台には僅かに及ばなかったが、危なげなく決勝進出を決めた。

### 11:40 男子 5000mW 決勝

櫻井 (3 年)、棟重 (2 年)、堀江 (1 年) の出場。1 年生として対校戦に出場する堀江の歩きが注目される。東学大の選手 2 人と合わせ 5 人でレースとなった。昼に近づくにつれて気温が上がっており雲もほとんど無く、コンディションは厳しいものとなっていた。スタートから東学大の選手 2 人が東大の 3 選手を大きく引き離しにかかる。その後方で棟重、堀江、櫻井の順、それぞれの間の距離が大きく開いた状態でレースが進む。その中で堀江は、同時進行の 5000mOP に出場している選手と 1200m 過ぎから 2000m まで一緒にペースを作る。しかしその後、暑さのためか、3 人のペースは少しずつ落ちてしまう。あと 800m というところで、棟重は警告によって失格となってしまう。しかし、堀江、櫻井はラスト 1000m でペースを上げ、堀江は 25'33"17 の 3 位、櫻井は 25'33"17 の 4 位でゴールした。東大にとって苦しい展開になってしまったが、今回出場した 3 選手はいずれも 3 年生以下であり、今年度、そして来年度以降の対校戦においても活躍を期待したい。

### 11:40 女子 5000mW 決勝

宮崎 (4 年) の出場。真昼の強い日差しが照りつける中、大変厳しいレースが予想された。女子の参加は宮崎と学芸大の選手の 2 名であり、一騎打ちのかたちとなった。スタート直後から学芸大の選手が飛び出し、宮崎は一人で歩く展開を強いられる。入りの 1000m は 5'14。ここまではリズムと腕の振りにも勢いがあり、いいペースで来ていた。しかし、疲労が早くあらわれたのか、1600m 通過あたりから急に足の運びが鈍ってくる。次の 1000m のラップは 5'50。ペースが落ちるものの、懸命に腕を振ってペースを

維持しようとする。2000m~3000m は 6'12。重なる疲労と厳しい暑さの中であるが、懸命に足と腕の動きを合わせ、歩きに勢いが戻る。足の回転も少し上がる。しかし大きくペースを上げるには至らず、この 1000m のラップは 6'05 となる。最後の 1000m は徐々にスピードが上がり、一步一步に力が入るものの、学芸大の選手の背中では遥か遠く、力を振り絞るも二位のままフィニッシュラインを切った。ラップは 5'50 であった。結果は惜しいものとなったが、しっかりと歩く姿は後輩たちの目に焼き付いただろう。競歩パート部員の一層の活躍に期待すると同時に、健闘した宮崎に拍手を送りたい。

### 12:20 男子 100m 決勝

1 レーンに松本 (3 年)、6 レーンに竹井 (M2) の出場。レース前には 2 人で話し合う様子や、声援に応える様子から 2 人とも落ち着いているようだった。松本は予選の好調ぶりから見るに 10 秒台を狙えるコンディションにある。また竹井は優勝を狙うと共に日本インカレ標準の突破も目指す。スタートから 30m まではどの選手も横一線に並んでいたが、竹井は 50m 付近から先頭に立つとそのままと一気に駆け抜けた。結果は 10"86(-1.3) の 1 位で大会 2 連覇を達成した。松本は 50m 付近から離され、差を詰めることができないままゴールし 11"29(-1.3) の 7 位であった。竹井は 8 点、松本は 2 点を獲得した。他の選手を寄せ付けない竹井の走りは圧巻であり今後の活躍が一層期待される。松本は決勝では思うような走りができなかったが、今シーズンの好調ぶりから次回以降の対校戦でのチームへの更なる貢献に期待がかかる。

### 12:35 男子 400m 決勝

3 レーンに森本 (3 年)、5 レーンに小西 (4 年) の出場。先に決勝が行われた男子 100m に続き、400m で大きく得点を伸ばし、優勝を争う東京学芸大学と差をつけたいところである。両選手とも各組 1 着で決勝進出を決めているだけに、最高の結果を期待して

応援にも力がいいる。レースでは、やはり小西が前に出て全体を引っ張った。3レーンの森本は、4レーンの選手と5レーンの小西に差をつけられて第3コーナーにさしかかった。そこから森本はスピードを上げ、外側のレーンの選手を追い抜いていく。コーナーを出ると小西がトップで森本は3番手。ラスト50mほどで小西のスピードが落ち、4レーンの選手に追い上げられた。フィニッシュ直前で並ばれ、最後まで競ったが惜しくも2位でゴール。森本はその後3位でゴールした。記録は小西が48"52で2位、森本が49"86で3位だった。東大のワンツーフィニッシュとはならなかったものの、2人合計して13点という高得点をたたき出した。午後からのレースに出場する選手を勢いづけたことは言うまでもない。今後の対校戦でも得点源として男子400mが目される。

#### 12:40 女子 400m タイムレース決勝

1組6レーンに坪浦(2年)の出場。参考記録では東京学芸大学の選手がトップで、坪浦は組最下位となっているが、優勝を期待できる実力がある。対校選手としての初めてのレースは、天気も気温も快適な中行われた。1組は4名でのスタートだった。坪浦はアウトレーンなので周りの選手を気にすることなく、前半は自分のペースを守り気持ちのいい安定した走りを見せた。しかし250m地点から参考記録トップの選手に差をつけられ始めた。ホームストレートではスピードを維持できず、独走を許した。後方の選手たちとは間を空けてフィニッシュし、記録は59"31で2着だった。全体では2位に入り貴重な7点を獲得した。初めての対校戦で、59"48だったUBを0"17更新したが、ラストの150mをいかにまとめられるかという課題も残った。これからどんどん対校選手としてレースを重ね、女子パートの得点源となることに期待がかかる。

#### 14:00 男子 200m 決勝

4レーンに小西(4年)の出場。ここまで既に200mを1本、400mを2本走りこのレースが4本目となる。しかし、小西は本数を重ねても大崩れしない強さがあり、優勝も十分射程圏内である。しっかりスタートを決め、前半からラクにスピードに乗って先頭を伺う積極的なレース運びを見せる。コーナーの出口では3~4番手につけた。小西は直線に入ってもフォームが乱れない。前をいく選手が後半苦しくなり、走りが乱れて失速する中、小西は予選同様伸びのある走りで1つずつ着実に順位を上げる。最後までたれることなく先頭との差も詰めていくが、結局2位でゴール。このとき22"15(-1.4)であった。2種目計4本走り、どちらも2位入賞を果たした小西。短長のエースとして更なる活躍を期待せずにはられない。

#### 14:10 男子 400mH タイムレース決勝

1組5レーンに、この日110mHにも出場した宮原(4年)、2組4レーンに越村(4年)、6レーンに兄井(2年)が出場。宮原は5月中旬に行われた関東インカレにおいて男子2部3位で表彰台に上っており、今回も高得点が期待されていた。まず宮原の出走。レースはバックストレート終わり際から差がつき始め、宮原はこの時点で2番手。このまま2着でゴールするかと思いきや、残り100m地点で3番手の選手が追い上げ、宮原に迫る。しかし、宮原も粘り2着(53"10)を死守。全体でも2位であった。次に越村・兄井の出走。2組目はスタートで既に差がついており、越村、兄井そして3レーンの選手が引っ張っていく形となった。この3選手の均衡が崩れたのは1組目と同じバックストレート終わり際。3レーンの選手が失速し、越村と兄井が抜け出す。東大のワンツーフィニッシュが見えたこの時点で応援席は大いに盛り上がったが、このレース、これで終わりではなかった。最後のハードルを越えた後、兄井が劇的な追い上げを見せ、越村を追い抜いて54"00の1着、越村は54"13の2着であった。結果、兄井は全体で

4 位、越村は 6 位に入り、両者とも得点を獲得した。この試合の結果だけを見れば最も点を獲得したのは全体 2 位の宮原であったが、ここでは越村・兄井兩人に注目されたい。この 2 人は自己ベストを更新しており、特に兄井は 2 週間前に行われた関東インカレで自己ベストを更新している上での更新であった。宮原だけでなく、この兩人の来る四大戦、七大戦での活躍が期待される。

### 14:25 男子 800m 決勝

5 レーンに小南 (4 年)、7 レーンに早川 (2 年) の出場。予選で早川は自己ベストを更新し全体の 2 番手、小南は組 1 着の余裕の走りで全体の 3 番手につており、両者ともに高得点が期待される。スタート。ブレイク後、バックストレートで小南が先頭、早川は後続の選手をブロックする形で 2 番手につける。200m、300m、400m と東大の 2 人で先頭をキープしたまま 2 周目へ。1 周目の通過は 60"。ややゆったりとした入りとなった。500m を過ぎると直線から 600m にかけて東学大の選手 2 人が先頭へ。600m 通過時点で早川が 3 番手、小南が 4 番手。ラスト 200m から先頭が一気にペースを上げ、早川、小南も 5 番手の東工大の選手とともに先頭を追いかける。650m で小南は順位を一つ落とし 5 番手に。最後の直線では小南が猛烈なスパートを見せ、順位を 2 つ上げるもあと少しのところまで 2 位に追いつけず 2'00"13 の 3 位。小南と東工大の選手に抜かれ順位を落とした早川は 2'01"27 の 5 位でゴールした。対校戦らしいコンビネーションも見せて、小南、早川の 2 人で 10 点を獲得し、チーム全体に勢いを与えた。今後の 2 人の対校戦での活躍が期待される。

### 14:35 女子 800m タイムレース決勝

1 組 2 レーンに河原 (3 年) が出場。参考記録は全体の 5 番目。特別気温が高いということもなく、悪くはない条件である。2 日前の練習では好感触がつかめたので、目標は 2'32"、せめて 2'35" は出したいところ。

スタートからスピードに乗ることができず、ブレイクまでの時点で差がつく。前と離れていてペースがつかめなくなるが、最初の 400m は 36"1-38"4(74"5) とここまでは予定通り。しかし体が重く感じて前に進まず、2 周目は少し落ちる。集中力が切れたこともあってラップは 41"5-42"0。2'38"58 の 5 着でフィニッシュ。最初から順位変動はなく、最後まで完全に 1 人で走ることとなった。目標には届かない結果となったが、春の調子が悪かった頃よりは走りが戻ってきたという手応え。本人は秋頃に記録の向上を目指している。

### 14:55 男子 4×100mR タイムレース決勝

1 組 4 レーンに泉 (4 年)-竹井 (M2 年)-松本 (4 年)-飯島 (6 年) の走順で出場。藤田が大会前の怪我、稲葉が 200m 予選の最中に足を故障、西村が欠場して主力が抜け、飯島は走り幅跳びの競技直後に出場するというレースになった。1 走泉は持ち前の良いスタートからスムーズに加速、7 レーンの東工大に先行されるが学芸大とはほぼ同時にバトンパス。先程の 100m で優勝した竹井は、学部生、院生の混合チームが認められるこの試合で圧巻の走りを見せて一位にたった。3 走は 100m で決勝に残った松本。現在の 4 年が抜けた来年の関カレに向けて、次期エースとしての走りを見せつけたいところ。竹井から松本へのバトンパスは詰まってしまう、持ちタイムで東大より速い学芸に内側から差を詰められるが、力強い走りで必死に粘り 4 走の飯島へ。急遽組み直したりレーメンバーのために 3、4 走のバトンパスはぶっつけ本番である。飯島のスタートは慎重になり、かなり詰まりながらバトンが渡る。直前まで幅跳びの決勝を行っていた飯島は、疲労がたまっている中、必死で学芸を追ったが 40"84 の 2 着でゴール、全体で 2 位となった。欠場者が相次ぎ補欠外の選手も起用し、バトン練も不十分なレースの中で 40 秒台にまとめられたことは、今季は 4 継の主力だけでなく控えのメンバーの走力も高いことを示

している。これからの対校戦、そして全カレでの決勝進出に向けてもう一段上へと進んでほしい。

### 15:05 男子 5000m 決勝

小松(5年)、渥美(4年)、近藤(1年)の出場。気温は最高31度まで上がり、スタート前にやや落ちついたものの、ハードなコンディションでのレースとなる。序盤は3名とも先頭集団につける。1000mを2'58で通過したあと、近藤と東工大の松井が抜け出す。渥美と小松は10名ほどの第二集団で冷静にレースを進める。近藤は松井につけ、暑い中1km3分を切るペースを刻む。3000mは先頭の2名が8'55、第二集団が9'12で通過する。ここで、第二集団で首都大の選手がペースアップ。渥美はこれに対応するが、小松はこれについていけない。一方先頭では、4000mを過ぎたところで松井が仕掛ける。近藤も懸命に走り、ラスト1000mを2'45で走破したものの、僅かに及ばず14'40"46の2位でゴール。渥美はラスト300mで圧巻のスパートを見せ、東工大の選手を振り切り15'07"44の3位でゴール。小松も後半追い上げ、15'19"52の6位でゴール。3名は合計で16点を獲得し、東大の総合優勝に大きく貢献した。この流れを今後の対校戦、さらには箱根駅伝の予選会にまでつなげてほしい。

### 15:55 男子 4×400mR タイムレース決勝

1組4レーンに兄井(2年)-河野(2年)-藤田健(3年)-森本(3年)の走順で出場。今回は3年生以下のメンバー編成で臨んだ。申請記録は東京学芸大に次ぐ2番手だが、2週間前の関東インカレの記録は東大が上回っており、競り合いになることが予想された。1走の兄井はスタートから積極的に飛ばし、バックストレートで早くもアウトレーンの選手を抜き去る。トップでホームストレートに入り、ラストはやや失速したものの順位はキープし2走河野にバトンを繋ぐ。ラップタイムの49'1は自己ベストだった。河野は東京学芸大の選手に最初の100mで抜かれるも、

慌てずに付いていく。ホームストレートで相手を抜き去り、トップで3走藤田健にリレー。この時点でトップ争いはほぼ2校に絞られた。藤田健は最初の位置取りで東京学芸大の選手の前に出て、先行を許さない。相手も粘り、第4コーナーを回ったあたりで順位を落としてしまうが、大きく失速することはなく2番手でバトンを繋ぐ。4走森本は前半、相手が飛ばす一方で自分のペースをしっかりと守る。しかし、後半は思うように走りが伸びず、そのまま2着でフィニッシュ。タイムは3'18"10で、総合でも2位となった。4年生抜きで臨んだレースで2位という結果は、層の厚さを示したと言える。一方、チームの目標である四大戦での全日本インカレの標準切りに向けては更なる底上げが求められるところだろう。

### フィールド

### 9:30 男子三段跳 決勝

田中(4年)、長井(3年)、吉田(3年)の出場。人里離れた閑静な競技場で行われた。空はよく晴れわたり、気温も高かったが風は少し不安定であった。今回は上級生の出場となった。吉田は先日の関東インカレで自己ベストをマークし優勝をはたしており、全体としても高得点が期待された。長井は1本目から3本目まで助走が安定せず、全てファールに終わったが、出場選手が8人だったため4本目からの試技も行うことができた。4本目もファールとなったが、5本目に13m24(±0)をマークして7位となり2点を獲得した。吉田は1本目を短めの助走で行ったがファール、全助走に変更した2本目で13m93(-0.9)を跳んでトップに立った。その後は記録が伸びなかったが、5本目に逆転を許し迎えた6本目で上手くスピードに乗って14m36(+0.4)とこの日一番のジャンプを見せ再び逆転。見事に優勝した。田中は力強い跳躍で3本目にこの日最高の13m53(±0)をマーク。4本目以降は今一つ記録を伸ばせず、6位だった。三段跳全体で13点をもぎ取る上々の結果となり、総合優勝



に大きく貢献した。

### 9:30 男子棒高跳 決勝

松下(4年)、戸部(1年)の出場。天気は快晴、風向きは頻繁に変化するものの微風というまずまずのコンディションの中、競技が行われた。出場人数が4人と少なく大量得点が期待される。戸部は3m00から試技を開始し、ボールの突込みで形が崩れてしまうものの一発でクリア。3m20にバーが上がり1本目に振り上げのタイミングが合わず失敗するが、2本目にはスピードに乗った助走でクリアした。続く3m40では3本ともボールを立たせられずに失敗。結果は3m20で3位であった。松下は4m00から試技を開始した。1本目、短い助走で踏み切ったがボールが柔らかすぎたため空中で体が流れてしまい失敗。2本目は助走を伸ばしたが踏切位置が合わず、バーの下を走り抜けてしまう。続く3本目も1本目同様に体が流れてしまい失敗。NMに終わった。松下は踏切足の足首の捻挫の後遺症を気にして気持ちの良い踏切ができなかった。記録や順位を見ると上出来とは言えないが、松下は関東インカレ後、戸部は大学初戦であることを考慮するとそれなりの結果ではあり、棒高跳びでは6点を獲得した。今回の試合で見つけた課題を克服して、今後の対校試合でのさらなる活躍を期待したい。

### 10:30 男子円盤投 決勝

出場選手は3名。練習では楽々B標準切り、今回こそ試合で結果を出せるか、2年土井。今大会投擲三種目に全て出場、誰もが認める投擲のエース、3年奥村。投擲パートの大ベテラン、経験の違いを見せつけるか、6年宮野。天候こそ晴れたものの、9時半からの試技開始という早い時間に各自対応ができるかどうかが見ものである。特に6年宮野は関東インカレの直後ということもあり、悪条件が重なる中でどれだけ実力を発揮できるか、ベテランの技量に注目が集まる。1投目、土井はまず立ち投げで堅実に投げ

28m55。奥村も立ち投げでゆったりと投げたのだが、投げた後に油断し、出る場所を間違えてファールに。宮野は1投目からしっかり回転投げで28m64。2投目、土井はここから回転投げに以降するも、大きく右に逸れてファール。奥村は相変わらず立ち投げでゆったりと投げるも27m43で記録は伸びず。宮野は力強いフォームでの回転投げで着実に記録を伸ばし、30m79をマーク。3投目、土井は仲間の声援を受け、回転して円盤を投げる。手放された円盤は真っ直ぐ飛んで行き、見事30m78を記録。奥村は立ち投げを続行。それでも力強い投げを見せ31m04と更に記録を伸ばして行く。宮野は珍しく円盤を右にそらしてしまいファール。4投目以降奥村は回転投げに移行し、土井も記録を伸ばそうと力を込めるが両者ともに力んだか、3投ともファールとなる。一方宮野は4、5投目こそファールとなったものの、6投目でベテランの意地を見せ、32m72を記録し奥村の記録を抜いて3位となる。奥村は31m04で4位、土井は30m78で5位であった。宮野の安定感は言うまでもないが、土井は念願の30m代にのり、奥村も立ち投げにもかかわらず31mを投げこれからの活躍が非常に期待される。

### 10:30 男子砲丸投 決勝

砲丸投には加藤(2年)、奥村(3年)、宮野(6年)の出場。この日は朝から日差しが強く、気温が非常に高い中での試合となった。先日の関東インカレに出場した奥村と宮野は申請記録でも1番手、2番手となっており東大の高得点獲得に期待が集まる。また、加藤は砲丸投初出場。砲丸投の出場者がわずか6人となっており入賞は確実だが、どこまで順位を伸ばせるか。第1投目、加藤はスタンディングスローで7m台ながらも確実に記録を残しこの時点で5位につける。奥村、宮野は早速11m台の投擲を見せて宮野1位、奥村2位となる。加藤はその後グライドに挑戦し、慣れないながらも8m28の記録を残す(順位は変わらず5位)。宮野、奥村も安定して11m台の

投擲を次々と見せておりこのまま順位は変わらないかと思われたが、5 投目に東学大の選手が 12m 越えの投擲を見せて単独トップに立つ。12m 後半のベストを持つ奥村、宮野は逆転を図るも、うまく砲丸に力を伝えることが出来ず、奥村が 11m80 で 3 位、宮野が 11m85 で 2 位、加藤が 8m28 で 5 位となり競技終了となった。宮野、奥村は関東インカレ後ということもあり力が出し切れず悔いの残る試合となった。加藤は初試合であり、まだまだ動きに改善の余地があるであろう。サブ種目として砲丸投の練習を積み、砲丸投の 3 番手としてこれからの対校戦でも活躍してもらいたい。

### 11:10 女子走幅跳 決勝

女子走幅跳には白形 (3 年) が出場。申請記録は 4m91 で、対校選手 9 名中 4 番目となる記録。練習では白形は数本の助走で足合わせを行った。11:10 の炎天下の中競技が開始された。1 本目は 4m81(-1.3)。踏切は踏切板の半分くらいの位置であった。続く 2 本目は 4m65(-0.8)。これは踏切板の少し手前で踏み切っていたため、実測は 4m80 くらいだと思われる。そして 3 本目は 4m69(-0.6)。この踏切はうまく合っていた。白形は安定した助走をし、3 本目の試技を終え、4m81 で全体の 4 番目でベスト 8 の試技に臨んだ。4 本目は 4m78(+1.0)、五本目はファール、結果として白形は 6 本目に 4m86(+0.2) を記録し、4 位で競技を終了した。試合後の白形の様子から察するに、試合中のけが等はなかったと思われる。跳躍チーフ田中がスタンドで言ったように助走スピードの向上が今後の課題となるだろう。しかし、練習跳躍では、踏切が合わない跳躍もあった中で、確実に踏切を合わせ、自己ベストに近い跳躍を見せた点では今回の競技は決して悪くはなかったのではなかろうか。この種目で東大は 5 点を獲得。現在跳躍パートには女子は一名のみで、今後選手が増えればこの種目のさらなる得点も望めるだろう。白形の今後の成長に期待したい。

### 11:40 男子走幅跳 決勝

飯島 (5 年)、西村 (3 年)、深澤 (3 年) の出場。気温は晴れで気温も高かったが、ピットは日陰になっておりコンディションは良かった。好記録が期待された。飯島は 1 本目 6m73(+0.0) を記録し、まずまずの滑り出し。2 本目では 6m74(+0.1) で記録をわずかに伸ばす。3 本目にパスするも 4 本目に踏切がうまくいかず 5m04(+0.8)。5 本目は足が合わず駆け抜けてファール。6 本目には観客に手拍子を求め、7m を越す今日一番の跳躍を見せるが残念ながらファールだった。西村は 1 本目はファール。2 本目もいい跳躍を見せるが惜しくもファール。3 本目は 6m91(+0.3) を記録。4 本目は踏切に余裕があるものの、7m22(-1.0) の大会記録を樹立し 1 位になる。6 本目で全カレ B 標準の 7m55 を目指すため 5 本目はパスする。6 本目、惜しくも標準には届かず 7m29(+0.5) を記録したがすばらしい跳躍であった。深澤は 1 本目 6m97(+0.0)、2 本目 7m00(-0.8) と絶好のスタートを切る。3 本目は踏切に失敗したのか 5m40(+0.8)。4 本目に 7m02(+0.2) とさらに記録を伸ばす。5 本目は 7m を越えるいい跳躍をしたが惜しくもファール。6 本目もファールとなってしまい記録は伸ばせなかった。結果は西村が 7m29(+0.5) の大会新記録で 1 位、深澤が 7m02(+0.2) で 4 位、飯島が 6m74(+0.1) で 6 位で 16 点を獲得した。西村、深澤は自身の力を十分に発揮したが、飯島も記録はベスト記録には及ばなかったが 6 本目などでいい跳躍を見せた。

### 13:00 男子やり投 決勝

2 年加藤、3 年奥村、4 年杉山が出場した。50m 超えを目指す 2 年加藤の 1 投目はラインを越えてしまいファールにおわる。しかし、投げる前に雄叫びをあげた次の 2 投目では自己ベストを大きく更新する 52m43 を叩き出す。さらなるベスト更新が期待される 3 投目は 48m98 であったが、コンスタントに 50m 付近まで投げる実力を見せつけた。この時点で 2 位となり続く 4 投目では腕投げになってしまい記録も

のびず、ひじを負傷してしまったためここで終了となってしまうが、結果は 3 位で上位入賞を果たした。3 年奥村は関カレの疲れやこの日円盤、砲丸に続く 3 種目であったことが響いたのか記録がのびず、3 投目がおわった時点での記録は 48m88。4 投目以降も関カレのような投擲は見られず記録は 51m07 であったが、この疲労が溜まっている中、4 位で高得点したのはさすがであった。最近の記録会では思うような投擲ができず、記録がのび悩んでいた 4 年杉山は 1 投目では記録がのびず 41m87。しかし、続く 2 投目では大きく記録をのばし 48m39 をだし、3 投目終了時点で 7 位。4 投目以降は記録がのびなかったのが残念だが、それでも結果 7 位で入賞し、しっかりと得点してくれた。加藤のひじの怪我が心配されるが、各人のびしろがまだまだあり、夏、秋までには大きな記録更新が期待できる。今年の対抗戦ではやり投げは大きな得点源となるだろう。

### 13:30 男子走高跳 決勝

東大からは福永 (3 年)、竇田 (2 年)、木下 (1 年) の 3 人が出場。試合は 1m60 から開始された。160cm には竇田が挑戦。1 回目は失敗するも 2 回目に見事に跳躍を成功させた。バーの高さが 165cm に上がる。竇田は 1,2 回目を失敗し、迎えた 3 回目の試技。一瞬バーを越えたかに見えたものの、最後にわずかに体が触れ、失敗。ここで競技終了となった。続いて 170cm にバーが上がる。ここで期待のルーキー木下が登場。高校時代走幅跳、三段跳でも好記録を残した逸材である。緊張からかバーに体が触れつつもなんとか持ちこたえ、成功。175cm、180cm も成功し、185cm にバーが上がる。2 回の失敗跳躍後の 3 回目。上体は完全にバーを越えるも、失敗。9 位で競技を終える。190cm からは福永が登場。190、195cm をそれぞれ 1 回目で難なく成功させると、200cm も 2 回目でクリア。205cm に挑む。1 回目は失敗。2 回目はテーピングの位置を微調整し、成功をはかるも、失敗。そして 3 回目。ゆったりとした助走からこの

日一番の跳躍を見せるも、わずかに体がバーをかすめ、失敗に終わった。だが、勝負はここで決まらなかった。福永と 1 位争いを繰り広げていたもう一人の選手も 205cm を 3 回とも失敗、セカンドベストなどの記録もすべて一緒に福永と並んだため、タイプレクが行われることとなった。福永の試技は 2 番目。先に 205cm を跳ばれてしまい、失敗が許されなくなった。固唾を飲んで見守る応援団を前に福永がゆっくりと助走を始める。そして踏み切り。ぴったりとはまる。ふわりと体が浮き、バーを越えたかに見えたが、体がかすめたバーはしばらく振れたのち、あえなく落下。福永は 2 位で競技を終えた。福永は 2m00 を安定して越える実力を持っており、今後の対校戦、ひいては来年の関東インカレにおいてもエースとしての跳躍が期待される。また、走高跳は 1, 2 年からも対校戦に選ばれており、今後の活躍が楽しみである。3 年生エースと下級生の突き上げが融合すれば、今後の走高跳はますます面白くなってくるだろう。

## 3. 試合結果

### 男子 100m 決勝

1	<u>竹井尚也</u>	東大	10" 86
7	<u>松本大樹</u>	東大	11" 29 (+1.5)

### 男子 100m 予選

1 組			
2	<u>松本大樹</u>	東大	11 " 06(+0.6) Q
2 組			
1	<u>竹井尚也</u>	東大	10 " 85(+0.3) Q
4 組			
3	<u>泉悠太</u>	東大	11 " 07(+1.5)

### 男子 200m 決勝

2	<u>小西慶治</u>	東大	22" 15
---	-------------	----	--------

(+1.3)

## 男子 200m 予選

1 組
3 <u>河野太郎</u> 東大 22"69(-0.6)
2 組
- <u>稲葉啓人</u> 東大 DQ
3 組
1 <u>小西慶治</u> 東大 22"12(-1.3)

## 男子 400m 決勝

2 <u>小西慶治</u> 東大 48"52
3 <u>森本淳基</u> 東大 49"86

## 男子 400m 予選

1 組
1 <u>小西慶治</u> 東大 48"62 Q
2 組
- <u>河野太郎</u> 東大 DQ
3 組
1 <u>森本純基</u> 東大 50"59 Q

## 男子 110mH タイムレース決勝

4 <u>宮原弘季</u> 東大 15"81
8 <u>加来宗一郎</u> 東大 16"49
<u>中島盛義</u> 東大 18"25

## 男子 400mH タイムレース決勝

2 <u>宮原弘季</u> 東大 53"10
4 <u>兄井啓太郎</u> 東大 54"00
6 <u>越村真至</u> 東大 54"13

## 男子 4×100mR 決勝

2 <u>東大</u> 40"84
-------------------

## 男子 4×400mR タイムレース決勝

2 <u>東大</u> 3'18"10
---------------------

## 男子 800m 決勝

3 <u>小南直翔</u> 東大 2'00"13
5 <u>早川航平</u> 東大 2'01"27

## 男子 800m 予選

1 組
2 <u>早川航平</u> 東大 1'58"82 q
2 組
2 <u>戸田賢希</u> 東大 2'03"06
3 組
1 <u>小南直翔</u> 東大 2'00"06 Q

## 男子 1500m タイムレース決勝

1 <u>軽部智</u> 東大 3'56"30
6 <u>加藤騎貴</u> 東大 4'03"23
8 <u>西川拓</u> 東大 4'07"79

## 男子 5000m

2 <u>近藤秀一</u> 東大 14'40"46
3 <u>小松息吹</u> 東大 15'19"52
6 <u>渥美祐二郎</u> 東大 15'07"44

## 男子 5000mW

3 <u>堀江</u> 東大 25'33"17
4 <u>櫻井悠也</u> 東大 25'33"17
- <u>棟重賢治</u> 東大 DQ

## 男子走高跳

2 <u>福永大輔</u> 東大 2m00
9 <u>木下</u> 東大 1m80
- <u>濱田雅治</u> 東大 2m00

## 男子三段跳

1 <u>吉田侑弥</u> 東大 14m36(+0.4)
------------------------------

6	<u>田中恭平</u>	東大	13m53 (± 0.0)
7	<u>長井佑馬</u>	東大	13m24 (± 0.0)

男子走幅跳

1	<u>西村智宏</u>	東大	7m29(+0.5)
4	<u>深澤龍太</u>	東大	7m02(+0.2)
6	<u>飯島靖成</u>	東大	6m74(+0.1)

男子棒高跳

3	<u>戸部</u>	東大	3m20
-	<u>松下周平</u>	東大	NM

男子砲丸投

2	<u>宮野涼至</u>	東大	11m85
3	<u>奥村俊樹</u>	東大	11m80
5	<u>加藤輝仁</u>	東大	8m28

男子円盤投

3	<u>宮野涼至</u>	東大	32m72
4	<u>奥村俊樹</u>	東大	31m04
5	<u>土井雅人</u>	東大	30m78

男子やり投

2	<u>加藤輝仁</u>	東大	52m43
4	<u>奥村俊樹</u>	東大	51m07
7	<u>杉山耕平</u>	東大	48m39

女子 100m 予選 2 組

4	<u>笠村洋子</u>	東大	13 " 74(-0.1)
---	-------------	----	---------------

女子 400m タイムレース決勝

2	<u>坪浦諒子</u>	東大	59"31
---	-------------	----	-------

女子 5000mW 決勝

2	<u>宮崎愛里香</u>	東大	27'50"10
---	--------------	----	----------

女子走幅跳

4	<u>白形優衣</u>	東大	4m86(+0.2)
---	-------------	----	------------

4. 自己記録更新者一覧

()

5/23,24 第 244 回日本体育大学長距離競技会

800m 戸田賢希 (3 年) 1' 59" 77

5/30 第 63 回国公立戦

100m	泉悠太 (4 年) 11 " 07 (+1.5)
100m	島田一希 (4 年) 11 " 99 (-0.1)
100m	稲葉啓人 (4 年) 10 " 80 (-0.5)
100m	松本大樹 (3 年) 11 " 06 (+0.6)
100m	後藤裕瑛 (2 年) 11 " 84 (+1.4)
400mH	兄井啓太郎 (2 年) 54 " 00
400mH	越村真至 (4 年) 54 " 13
女子 400m	坪浦諒子 (2 年) 59 " 31
800m	早川航平 (2 年) 1' 58 " 82
800m	藤原大樹 (2 年) 2' 04 " 99
800m	富原健太 (2 年) 2' 10 " 55
800m	長谷川祐輝 (1 年) 2' 09 " 04
800m	小山倫之 (1 年) 2' 10 " 13
800m	遠藤幸生 (2 年) 2' 12 " 06
800m	栗山顕多 (2 年) 2' 19 " 29
1500m	軽部智 (3 年) 3' 56 " 30
1500m	加藤騎貴 (3 年) 4' 03 " 23
5000m	伊東祐輝 (2 年) 16'29" 03

5. 2015 年度部内五傑

男子 100m

1	藤田旭洋 (4 年)	10"62(+2.0)	4.4
2	稲葉啓人 (4 年)	10 " 80(-0.5)	5.30
3	松本大樹 (3 年)	11"06(+0.6)	5.30
4	泉悠太 (4 年)	11 " 07(+1.5)	5.30
5	飯島靖成 (6 年)	11"17(-0.9)	5.2

## 男子 200m

1	藤田旭洋 (4年)	21"58(+0.8)	4.19
2	稲葉啓人 (4年)	21"78(+0.3)	5.17
3	小西慶治 (4年)	22"10(+1.3)	5.4
4	森本淳基 (3年)	22"39(+0.1)	3.28
5	藤田健一 (3年)	22"82(+0.2)	5.3

## 男子 400m

1	小西慶治 (4年)	48"06	5.14
1	森本淳基 (3年)	49"54	5.6
3	兄井啓太郎 (2年)	50"55	5.2
4	河野太郎 (2年)	50"56	5.2
5	箕島頌 (3年)	51"21	5.2

## 男子 110mH

1	宮原弘季 (4年)	15"03(+0.5)	5.14
2	杉森康平 (6年)	15"04(± 0.0)	5.6
3	加来宗一郎 (3年)	16"09(+1.4)	4.4

## 男子 400mH

1	宮原弘季 (4年)	52"22	5.17
2	兄井啓太郎 (2年)	54"00	5.30
3	越村真至 (4年)	54"13	5.30
4	加来宗一郎 (3年)	55"44	5.3

## 男子 4×100mR

1	泉 (4年)-西村 (3年)- 稲葉 (4年)-藤田 (4年)	40"70	5.15
2	泉 (4年)-西村 (3年)- 稲葉 (4年)-藤田 (4年)	40"71	4.4
3	泉 (4年)-西村 (3年)- 稲葉 (4年)-藤田 (4年)	40"72	5.14
4	泉 (4年)-竹井 (M2年)- 松本 (3年)-飯島 (6年)	40"84	5.30

## 男子 4×400mR

1	兄井 (2年)-小西 (4年)- 森本 (3年)-河野 (2年)	3'14"57	5.16
2	小西 (4年)-稲葉 (4年)- 森本 (3年)-兄井 (2年)	3'14"64	5.17
3	小西 (4年)-稲葉 (4年)- 森本 (3年)-河野 (2年)	3'16"98	4.4
4	兄井 (2年)-河野 (2年)- 藤田 (3年)-森本 (3年)	3'18"10	5.30

## 男子 800m

1	軽部智 (3年)	1'52"31	4.25
2	加藤騎貴 (3年)	1'54"09	5.16
3	早川航平 (2年)	1'58"82	5.30
4	戸田賢希 (3年)	1'59"77	5.23
5	小南直翔 (4年)	2'00"04	5.3

## 男子 1500m

1	軽部智 (3年)	3'56"30	5.30
2	渥美祐次郎 (4年)	4'00"72	5.14
3	西川拓 (4年)	4'01"09	4.25
4	小南直翔 (4年)	4'02"37	4.25
5	加藤騎貴 (3年)	4'03"23	5.30

## 男子 5000m

1	近藤秀一 (1年)	14'40"56	5.16
2	渥美祐次郎 (4年)	15'07"44	5.30
3	小松息吹 (5年)	15'19"52	5.30
4	網谷直紀 (4年)	15'29"31	4.4
5	鈴木敦士 (4年)	15'31"20	4.26

## 男子 10000m

1	網谷直紀 (4年)	32'41"20	4.29
2	松本啓岐 (2年)	32'50"23	4.25
3	田村和也 (2年)	33'30"95	4.29
4	織原健人 (3年)	34'15"49	4.25
5	坂井優太 (2年)	37'10"13	4.25

## 男子 3000mSC

1	福島洋佑 (4 年)	9'56"66	5.06
2	荒田彰吾 (3 年)	10'09"70	3.28
3	伊藤嘉宏 (4 年)	10'19"04	4.4
4	岩淵康太 (3 年)	10'34"91	4.4
5	原耕資 (3 年)	11'02"22	4.4

男子 ハーフマラソン

1	小松息吹 (5 年)	69'21	4.12
2	網谷直紀 (4 年)	70'03	4.12
3	織原健人 (3 年)	75'47	4.12
4	須藤克誉 (2 年)	77'56	4.12

男子 5000mW

1	宇野文貴 (3 年)	25'27"02	5.30
2	堀江駿 (1 年)	25'33"17	5.30
3	櫻井悠也 (3 年)	25'56"77	5.30

男子 10000mW

1	渡邊成陽 (3 年)	43'18"33	5.16
2	棟重賢治 (2 年)	45'42"49	5.2
3	宇野文貴 (3 年)	48'56"64	5.2
4	櫻井悠也 (3 年)	52'27"69	3.25

男子走幅跳

1	西村智宏	7m23(-0.8)	5.16
2	深澤竜太	7m07(+1.2)	5.4
3	飯島靖成	7m02(-1.1)	5.16
4	吉田侑弥	6m98(+0.9)	5.4
5	佐渡夏紀	6m94(+1.4)	3.14

男子三段跳

1	吉田侑弥	14m94(+1.7)	5.15
2	田中恭平	13m59(+2.0)	5./2

男子走高跳

1	福永大輔	2m03	5.15
2	寶田雅治	1m75	5.3

男子棒高跳

1	上野隆治	4m50	4.4
2	松下周平	4m40	5.4

男子 砲丸投

1	奥村俊樹 (3 年)	12m74	4.4
2	宮野涼至 (6 年)	12m64	5.14

男子 円盤投

1	宮野涼至 (6 年)	36m56	4.26
2	土井雅人 (2 年)	28m25	5.3

男子 ハンマー投

1	鍵本直人 (3 年)	38m52	5.16
2	郡健太 (4 年)	31m39	4.26

男子 やり投

1	奥村俊樹 (3 年)	61m90	5.16
2	杉山耕平 (4 年)	44m59	5.4

女子 100m

1	笠村洋子 (3 年)	13"73(+1.1)	3.29
---	------------	-------------	------

女子 400m

1	坪浦諒子 (2 年)	59"31	5.30
---	------------	-------	------

女子 800m

1	河原未来 (3 年)	2'38"58	5.30
---	------------	---------	------

女子 5000mW

1	宮崎愛里香 (4 年)	29'11"82	5.30
---	-------------	----------	------

女子 10000mW

1	宮崎愛里香 (4 年)	58'43"16	5.15
---	-------------	----------	------

女子走幅跳

1	白形優依	4m74(+0.6)	5.3
---	------	------------	-----

6. 応援 OB・OG 紹介

国公立戦に際し、応援に駆けつけて下さった OB・OG の方のご氏名をご卒業年順に報告いたします (敬

称略)

S54 中谷敬二  
 H13 岡野浩行  
 H15 橋本武  
 H20 月崎竜童  
 H23 近藤堯之  
 H23 園部竜也  
 H27 筒井隆徳  
 H27 原知明  
 H27 横田絢

ご多忙の中、お越し下さいましたことに現役部員一同、心より御礼申し上げます。

## 7. 行事予定

今後の行事予定をお知らせいたします。

日程	行事	場所
7/ 4(土)	四大戦	上尾
7/ 11(土)	OB・OG 戦	駒場
8/1 (土), 2 (日)	七大戦	仙台・宮城野原
8/ 29(土)	一橋戦	一橋
9/ 11(金) ~ 13 (日)	日本インカレ	大阪・長居
10/10(土)	京大戦	駒場
10/17(土)	箱根駅伝予選会	立川

## 8. 連絡先 (慶弔等)

慶弔のご連絡は下記連絡先までお願い申し上げます。

総務委員長：斎藤誠二

TEL : 03-5370-9370

Mail : Seiji\_Saito@suntory.co.jp

学生主務：鈴木敦士

〒174-0053 東京都板橋区清水町 38-1-605

Tel : 080-6943-2138

Mail : shumu@utf.org

学生主務補：千田周平

Mail : utf.shumuho@gmail.com

部便り郵送不要の方は、お手数ですが学生主務補までご連絡下さい。

この部便りは陸上運動部ホームページ内の「OBOG向け」からもご覧になれます。

URL : <http://www.utf.org>

並びに陸上運動倶楽部のメーリングリスト「utf-club」にて、部便りのメール送付を行っております。メーリングリストへの登録をご希望の方は、お手数ですが学生主務または学生主務補までご連絡下さい。

学生主務 鈴木敦士

部便りに関してご意見がありましたら安藤までご連絡ください。部便り主任 安藤和記

(Mail : ohzifdi9@gmail.com)